

## 率直な意見交換を通じて関係を強化 ～ 海技教育機構と内航海運事業者の情報交換会を開催 ～

日本船主協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース(TF)」を設置し、優秀な日本人船員(海技者)確保のための広報活動を行っているが、内航関係については同TFの中に「内航ワーキンググループ(WG)」を置いて具体的な活動を進めている。

この度、内航WGが中心となって、海技教育機構本部及び傘下の海上技術学校、海上技術短期大学校、及び海技大学校の教員と、当協会会員の内航海運事業者がお互いの状況等について率直に意見交換する「情報交換会」を東京で開催した。

今年で8回目を迎える情報交換会は、6月7日に日本船主協会会議室にて実施した。会場には、海技教育機構本部、小樽、館山、口之津、唐津の海上技術学校、宮古、清水、波方の海上技術短期大学校、海技大学校8校の教員と内航船社19社から27名が参加した。

初めに海技教育機構本部から入試状況や就職状況など、機構の概要と、新規学校卒業者求人取扱日程の変更について報告が行われた。

次に、海技教育機構側から提起された「各種就職活動に関する最適な日程」、「今後の船員需要状況に対する業界の認識」、「女性船員の海運業界への社会進出」等について意見交換が行われた。

生徒に対する指導法や、若年船員養成の現状、各校のカリキュラムに関する事項など、内航船社や海技教育機構からは様々な意見が出され、有意義な情報交換が行われた。

また、将来の内航海運業界を支える優秀な新人船員の養成に向け、引き続き連携強化に取り組む必要性を確認して終了した。

日本船主協会では、来年度以降も率直に意見交換ができる場の提供を引き続き行っていく。



小田副会長の挨拶



会場の模様